

## 子どもの読書活動について

令和2年3月に「京丹後市 子どもの読書推進計画 第三次推進計画」を策定しました。その後、新型コロナウイルスによる感染拡大、また感染予防により様々な制限が課せられている日々です。

そんな状況下における、子ども達の読書に関する状況について、確認報告します。

### 1. 家庭における子どもの読書活動

乳幼児期からの家庭における読書への親しみ、読書の習慣化につながる取組が必要とされる中、そのひとつの足掛かりとも言えるものに「ブックスタート事業」がある。家庭において、すべての子ども、すべての親に絵本に親しむ時間を持つことで、ふれあう時間を持ってもらいたいとするものである。4か月児健診の場において、事業・絵本の紹介、絵本の読み聞かせを行ってきたが、令和3年度からは、絵本をプレゼントしいつでも絵本が側にある状況をつくっていくことができるようになった。しかし、コロナ禍のなか、令和元年度末から、健診時における読み聞かせの実施ができておらず、絵本と触れ合う体験ができていない状況である。

家庭支援事業における読書に関する事業も、計画はしたが実施することができなかった事業も多々あった。しかし、参加者の座る位置を固定しソーシャルディスタンスをとる、定員を設けるなど工夫しながら、出来得る事業に取り組んだ。参加の親子からも喜んでもらえ、事業実施の必要性を感じることができた。

保育所、こども園では、毎週絵本を持ち帰り家庭でふれあう時間をもつことができるよう取り組んでいる。小学校においても、一冊の本を親子で読書する親子読書など家庭において読書する時間を持てるよう取り組んでいる。

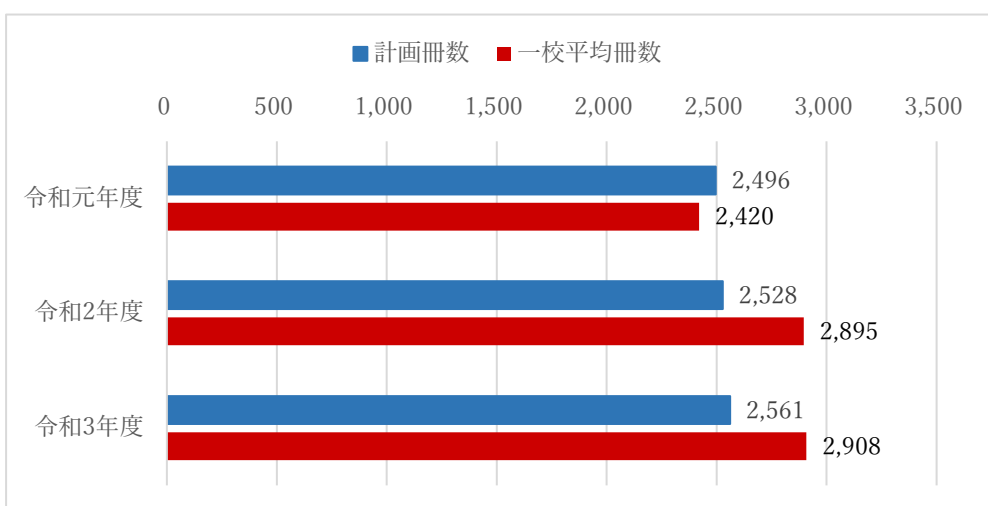
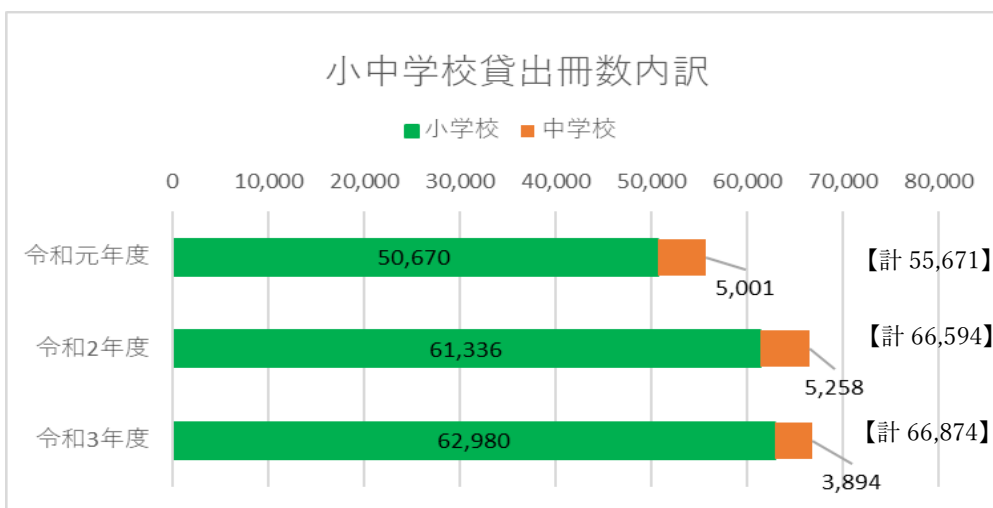
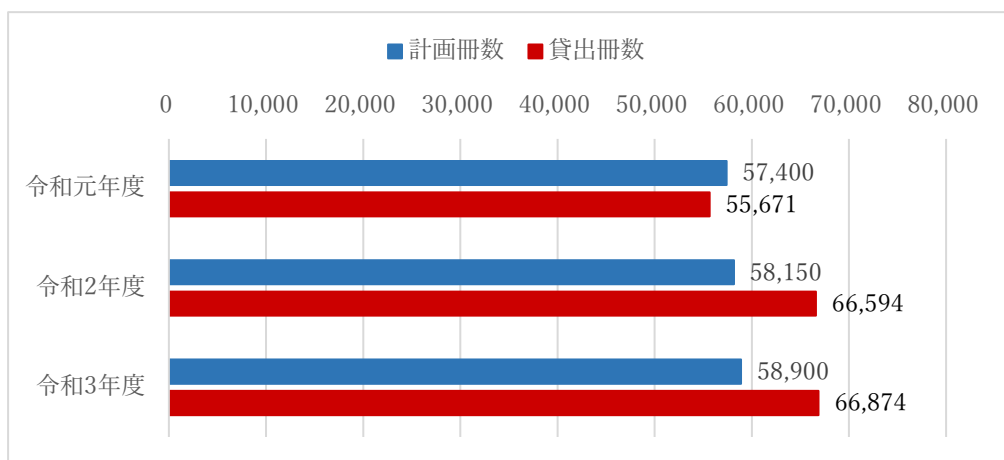
図書館においては、ブックスタート事業と同様に令和元年度末から、乳幼児を対象とした読み聞かせを実施できずにいる。実施についての問い合わせ等多々あり、求められていること、必要であることを実感している。

令和4年度からは、ブックスタート事業、乳幼児の読み聞かせ事業も、感染予防対策を講じて出来得る形で実施をすすめていく。

### 2. 学校等における読書活動

小中学校における読書活動、保育所・こども園における読書活動、またコロナ禍における読書活動の状況、工夫、変化などについて。

図 - 1 【学校図書館の貸出計画及び貸出冊数】 ※本市小中学校計 単位：冊



注：令和3年度は2月末までの実績

出典：京丹後市教育委員会

貸出冊数については、年々増加し計画冊数を上回る状況となっている。しかし、実績が伸びているのは小学校のみであり、中学校の貸出数を見るとその実績は減少している。

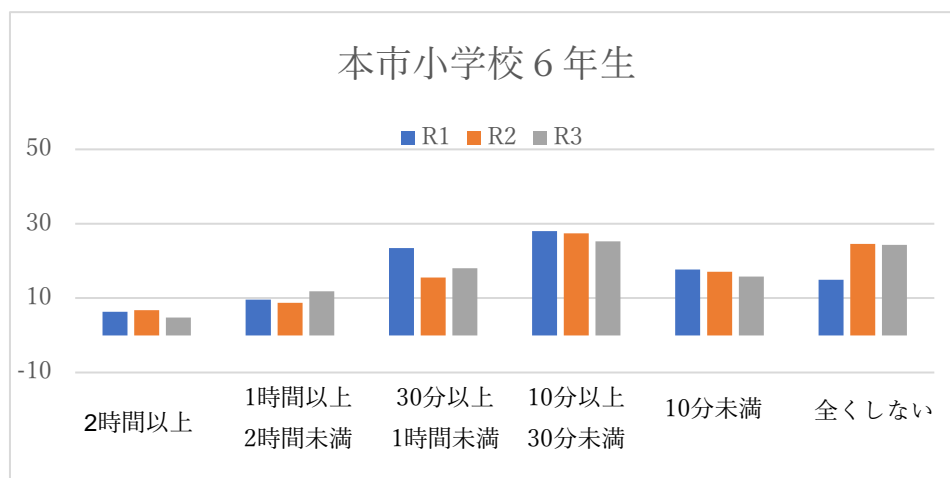
小学校においては、朝読書、昼読書など毎日決まった読書時間の確保、読書旬間を設置し、図書委員活動としてスタンプラリー、手作りしおりのプレゼント、目標を決めて取り組むブックウォークなど、楽しんで読書に取り組める工夫をしている。コロナ禍での影響として、ボランティアによる読み聞かせの日が減少したり、図書館職員のブックトーク等の訪問に制限がかかったりしたため、教員の読み聞かせに変更するなど対応した。また、図書室の来室時間を学年毎で割り当てたり、読み聞かせ時一定の距離を保つため、電子黒板に大きく映し実施したりした学校もあった。学校内において、コロナ禍が影響しての読書に対する児童の向かい方、様子に大きな変化は感じられないということではあるが、読書に取り組める数々の工夫が、貸出冊数の増加に結びついているものと考えられる。

中学校においても、朝読書等により一定の読書時間を確保している。また、図書委員会活動により、新刊図書の紹介、図書のポップ作り、新しい本との出会いを促す取組み、読書感想で他学年との交流を図る取組等で読書に関する興味・関心を高める工夫をしている。コロナ禍での影響としては、小学校と同様にボランティアの訪問を受けることができなくなったことがあげられる。図書室の利用を学年単位に変更し、毎日の利用が出来なくなったが、反面利用しやすくなったと感じている学校もあった。貸出冊数の減少は、図書室への来室人数が多くなったとする学校もあるが、朝読書のための本も家庭から持参する生徒が多く、図書室で本を借りる習慣がない生徒が多くなっていること、部活動や家庭での学習等多忙で、読書をする時間的なゆとりを持つことができないことが要因ではないかと考えられる。

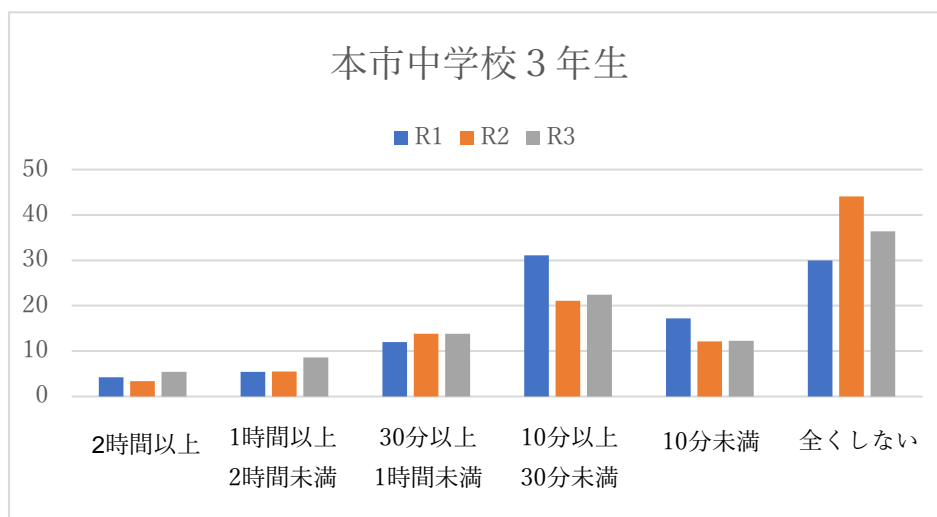
小中学校の課題として、読書の機会、時間の確保があげられている。休校により学習補充時間の確保などにより、ゆっくり読書をする時間をとることができていない。また、小学校では学年が上がるにしたがい、図書室の利用、貸出し数が減少していくことも課題としてあげられる。

また、タブレットの導入により調べ学習が減ったとする学校がある反面、タブレットにより読んだ図書の表紙を記録し活用するなどの学校もあり、今後、タブレットの利用を読書にどう活かしていくのかも課題である。

図 - 2 【児童・生徒の一日あたりの読書時間】 ※学校の授業時間以外、平日  
 ■本市小学校6年生 単位：%



■本市中学校3年生 単位：%



出典：「全国学力・学習状況調査」及び京丹後市教育委員会

保育所・こども園においては、毎日読み聞かせの時間を確保し、実施している。季節や行事にちなんだ絵本のコーナーを設置し、いつでも絵本を手にとることができる環境づくりに努めている。毎週絵本を持ち帰ったり、おたよりに絵本の紹介、読み聞かせの大切さなどを掲載したりし、家庭での読み聞かせ、読書の時間づくりを促してきた。コロナ禍においては、外部からのボランティアや図書館職員の訪問、保護者の読み聞かせを行うことが出来ない期間があり、その機会が減少した。また、読み聞かせをする際マスクをつけたままであり、口元、顔の表情などが伝わり難く内容が伝わり難いのではと感じられる。

課題として、読み聞かせを大切にしている家庭、保護者も多くみられるが、家庭によりその差は大きく、保護者の読書離れは感じるところである。おたよりや読書活動を通じ、保護者への啓蒙もすすめていきたい。

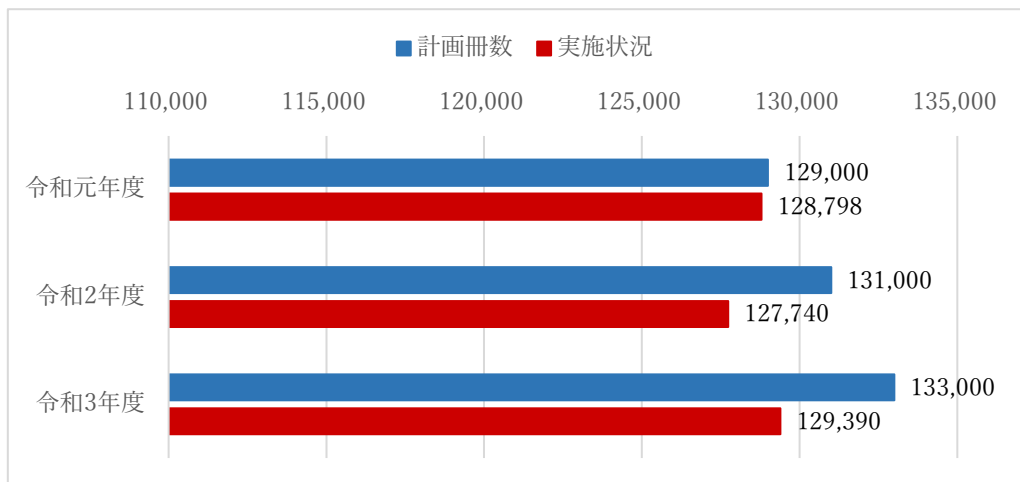
### 3. 地域社会における読書活動

#### (1) 図書館における読書活動

図書館においては、家庭や学校、地域社会の関係機関、団体などと連携し、読書活動を推進していく。

図－3 【市立図書館での児童書の収集・整備計画と実績状況】

単位：冊



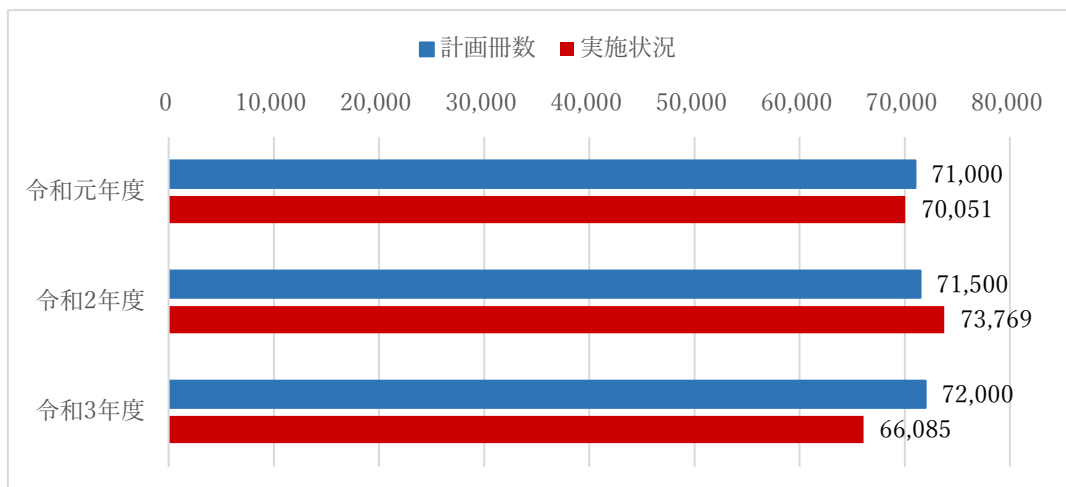
(注：令和3年度実績状況は3月15日までの実績) 出典：京丹後市立図書館

読書活動を推進していくうえで、最も重要である図書の整備・充実について、児童書の蔵書実績をみると、計画蔵書数までには至れていない状況である。特に令和2年度において計画を大きく下回った要因として、図書室等の移転等によりその蔵書を整理し一定数除籍としたことによることが考えられる。

今後、複本等の整理、分類の蔵書状況も踏まえ、必要な図書の収集に努めていく。

図－4 【市立図書館での団体貸出計画と実績状況】

単位：冊

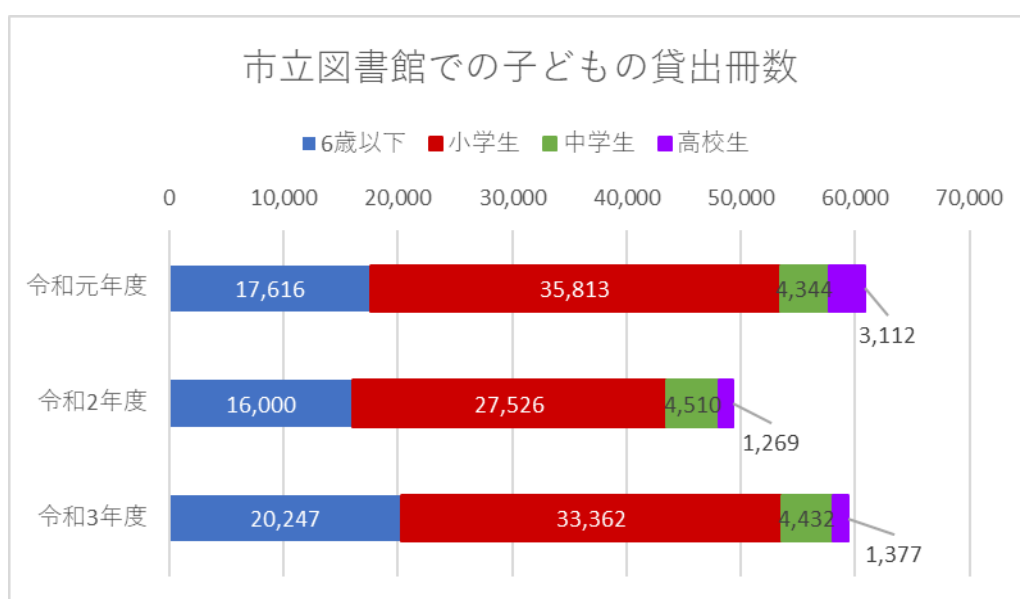


(注：令和3年度実績状況は2月末までの実績) 出典：京丹後市立図書館

図書館から市内小学校、保育所・こども園、放課後児童クラブへの団体貸出の状況は、令和2年度から放課後児童クラブも団体貸出の対象となり、貸出冊数も伸びた。また、小学校への団体貸出は、令和元年度から全学校、全クラスが貸出し対象となり、現段階でも変更なく全クラスを対象に貸出しを行っている。令和3年度については、小学校への貸出対象クラス数の減少、支援学級等1回の貸出し希望数が減となった学級があったこと、夏季休業期間等の貸出し希望が減少したこと等が要因となり減少している。

団体貸出用として毎年京都府立図書館から児童書を千冊程借り受けている。京丹後市内には蔵書として持っていない図書も多くあり、貸出す図書の内容の充実に役立っている。

図一5 【市立図書館での子どもの図書貸出実績】 単位：冊



(注：令和3年度実績状況は3月15日までの実績) 出典：京丹後市立図書館

貸出総数は、令和元年度 60,885 冊、2年度 49,305 冊、3年度 59,418 冊であり、計画としていた、令和元年度 55,530 冊、2年度 56,360 冊、3年度 57,190 冊を、元年度、3年度については上回る実績となっている。2年度については、コロナ禍の影響による休館期間、来館時間制限をした期間もあり、児童以外も含め全体として貸出しが減少している。令和3年度についてみると、6歳未満の貸出しは伸びているものの小学生の貸出し数が減少している。小学生については、図書館への来館自体が減少してきている状況にあり、行事、展示など小学生の貸出しに繋がる工夫が必要である。

行事については、令和2年度からコロナ禍の影響を大きく受け、実施の案内、準備はしたが中止した行事が多々あった。読書に親しむ機会、推進する機会を多く失う結果となっている。しかし、会場を大きな場所に変更する、人数制限をする、間隔を空けて参加できる工夫をするなどし、出来得る範囲での実施に努めてきた。今後は、中止にしている乳幼

児への読み聞かせを再開し、また来館、貸出しに繋がる、推進するような行事、展示等を企画実施していく。

## **(2) 地域公民館、子育て支援センター及び放課後児童クラブにおける読書活動**

地域公民館では子育て支援事業として、読み聞かせを中心とした事業に取り組んでいる。子育て支援センターでは職員やボランティアや図書館職員の訪問を受けて、常に絵本と触れ合う時間を持つようにしている。しかし、コロナ禍により活動の制限が課せられ、事業を中止にしたり、ボランティア等の訪問を受けたりすることができない期間があった。

放課後児童クラブにおいては、令和2年度から図書館職員の選書による団体貸出を受けようになり、1か月に一度本の入替えがあることで、常に新しい本を手にすることができている。また、長期休業期間には図書館職員の訪問を受け、読み聞かせ、ブックトークなどを実施することで、読書への推進を図っている。

## **(3) ボランティアによる読書活動**

本の面白さ大切さを伝えたいと、地域、学校、公民館などで読み聞かせなど読書活動に係るボランティア活動をしている。しかし、コロナ禍によりその影響は大きく、活動を大きく制限されてきている。また、ボランティアを育成するための研修も中止せざるを得なく、実施できていない。

今後は、出来得る時に出来得る形を工夫して、読み聞かせなど届けていけるよう工夫し活動をしていくことが必要と考える。